

ピーマン果実のカドミウム濃度低減 — 台木品種「大助」を用いた接木の効果 —

技術の特徴

- 果菜類の接木による可食部カドミウム濃度低減技術の開発に向け、高カドミウム土壌で栽培されたピーマンの可食部カドミウム濃度は国際基準値 (0.05 mg kg^{-1}) を上回る品種がある (図1)。
- ピーマンの台木として品種「台助」を用いると、品種「エース」のカドミウム吸収が抑制されて可食部カドミウム濃度が低下するため、有望な低減技術である (図2)。

研究の内容

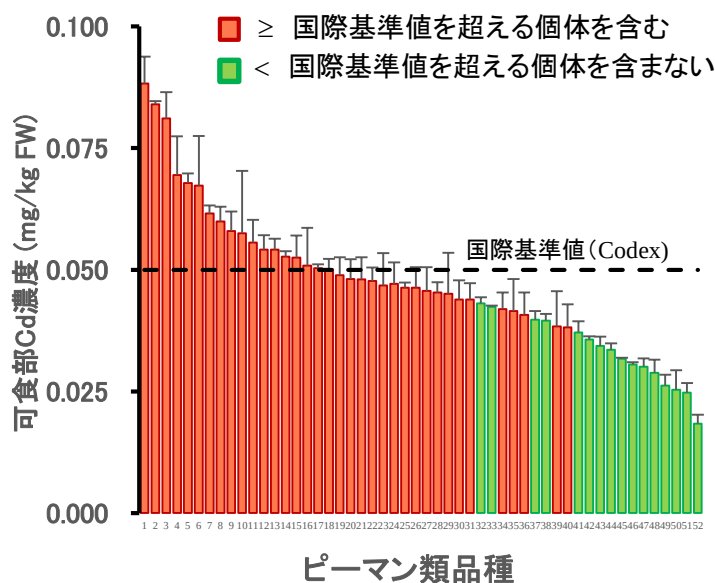


図1. 高カドミウム土壌で栽培されたピーマン類の可食部カドミウム濃度の品種間差異

供試土壌のカドミウム濃度は 2.1 mg kg^{-1} (0.1 mol L^{-1} HCl抽出)。バーは標準誤差を示す ($n=3$)。

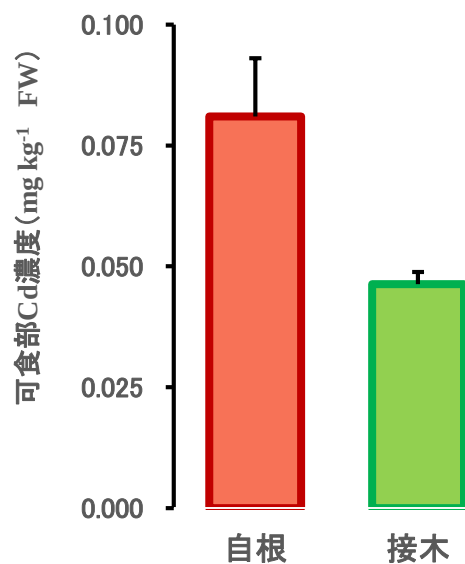


図2. ピーマン品種「エース」の接木による可食部カドミウム濃度低減

自根は接木なし。接木は穂木として品種2、台木として品種「台助」を用いた。バーは標準誤差を示す。

今後の展開

- トマト等の果菜類について低カドミウム吸収台木の選抜を行う。